



進路だより

令和4年度 第2号

令和4年7月7日(木)

東京都立羽村特別支援学校

校長 外山 裕介

進路指導部

大人も子どもも気持ちに余裕を

夏休みは子どもにとっての夏休み。ただ、大人はお盆時期の休暇といつも通りの週休日だけですという方も多いのでは。「子どもが家にいる時間の食事や様々に追われる時間が増えてしまう！」というご家庭もあると思います。移動支援や放課後等デイサービス、短期入所に日中一時支援・・・利用できるものを広げつつも、辛くなったら学校や支援先へ相談をしてください。

さて、以下のようなことを先日の進路学習会でお話させていただきました。

私たちは、**援助を受ける＝あきらめ**ととらえがちのような気がしますが、**援助をしてくれる人にありがとう＝素敵なお人**となるとどうでしょうか。知的障害のある子どもたちも、私たち大人も必ず人やモノに支えてもらう人になります。身体機能や認知機能は、誰しも支えてもらう人になるのですから、援助（ヘルプ）を心地よく受け入れられる人になっておく必要があるかもしれません。そうした意味から、「一人でやりなさい」「できるでしょ！」と子どもへ言いたくなる気持ちを少し抑えて、援助（ヘルプ）を求めてきた子に「よくできたね」が言えると少し、大人にとっての張り詰めた気持ちの夏休みが、余裕のある夏休みになると思います。

子どもを追いつめてしまいそうになることはきっと皆あります。ただ同時に自分自身も追いつめてしまいます。追いつめない夏休みをお過ごしください。

障害者手帳をスマホアプリに

愛の手帳や身体障害者手帳をスマホのアプリに登録して様々なサービスを受けられるようになってきています。これまでも、手帳を提示することで公共施設や映画館で割引がされてきましたが、手帳をアプリに登録することでスマホだけで良いということです。

行政サービスなどでは、まだ手帳や手帳をカードにしたものでないと証明にはならないところもあると思います。

ただ、アプリによって、色々な企業が割引サービスクーポンを提供するようになりましたので、飲食店なども障害のある人へ優しい店かどうかもわかるようになってきました。

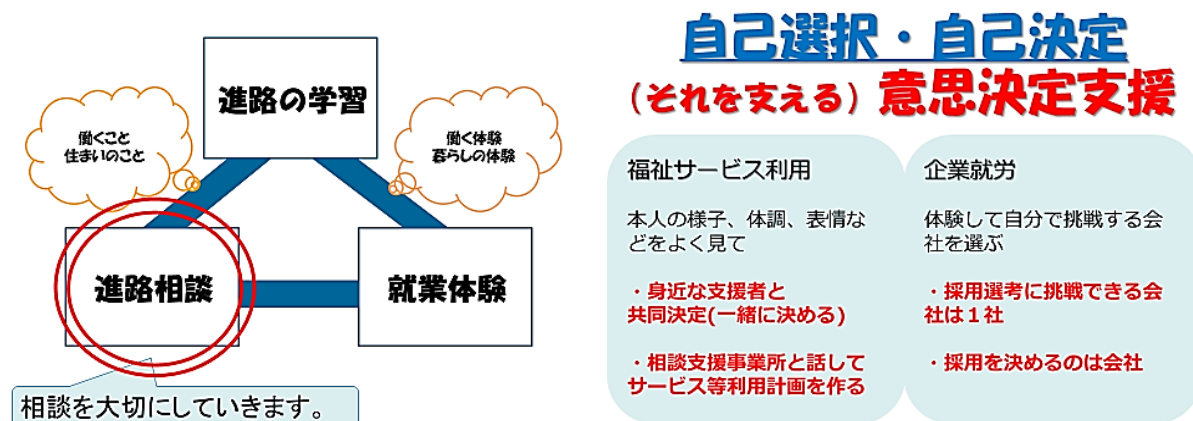


ミライロID

高等部 3 年生 現場実習の様子

昨年度に引き続き、感染症拡大防止対策をとりながら、3 年生がスタートしました。

コロナ禍ですが、3 年生のテーマは「**選ぶ・決める**」です。そこに変わりはありません。このような状況の中でもしっかり「**自己選択・自己決定**」それを支える「**意思決定支援**」ができるように「相談」を丁寧に行っていきます。



実習先の状況をひとつひとつ確認しながら、実際には、5月のゴールデンウィーク後から少しずつ現場実習が始まりました。しかし、感染拡大に伴い、現場実習の受け入れについても、予定変更をせざるを得ないケースがありました。業績の低迷やコロナ禍の対応等により、当初の実習予定を延期することや、受け入れ自体が難しくなってしまった、というケースもありました。(高3の実習について、例年でいうと5月下旬から6月下旬までがピークなのですが、今年度も感染拡大に伴う実習の再調整が多く、その結果、6月下旬から7月中旬にかけて実習の件数が集中しています)

企業に関して、昨年度、採用を控えていた企業が、コロナ対策を取りながら少しずつ採用計画を再開し始めているという情報も聞きます。



また福祉事業所に関して、送迎車内の過密をどう解消するか、利用時間の短縮、昼食の時間差、事業所内の混雑緩和のために作業台や座席の配置換え、実習等の受け入れ期間の短縮など、コロナ禍で生じる様々な課題に試行錯誤しながら対応しているという情報を聞きます。

今年の3年生は、新型コロナウイルスの感染拡大状況により、1年次のインターンシップや2年次の現場実習に大きな影響を受けながらこれまで進んできました。ですので、3年生になったとはいえ、進路を決めていくにあたっては生徒自身も心配や不安がまだまだあると思います。できることはなにか、自分はどうしたいか、「進路相談」を通してその手立てや方法を一緒に考えていきたいです。

2年生インターンシップ『知る、体験する、広げる』

5月の連休明けから、コロナ感染対策を徹底した上で、企業・福祉事業所でのインターンシップ（短期就業体験）に挑戦しています。昨年度はコロナ渦の影響もあり行うことができず、今回が初めてのインターンシップとなりました。どの生徒もいつもと違う環境の中で不安や緊張はあると思うのですが、目標をもってしっかりと取り組んでいます。実際に体験した生徒に感想を聞くと、「楽しかった」「緊張したけど、体験できて良かった」という答えが多く聞かれました。また、その一方で、「体力面で辛かった・疲れた」と振り返りの会で話す生徒もあり、今回の体験から体力面や精神面において浮かび上がる課題もありました。

実習前の事前面談では、授業で練習した成果を発揮しようと、学校名や名前を緊張感いっぱい伝えていました。参加した生徒の大半がそれぞれの今の力を出し切ることができています。

今回の体験を通じて、まずは働くことへの具体的なイメージをもち、できたことに対して自信につなげていってほしいと思います。そのうえで、生徒それぞれが自分の課題を明確にし、色々な学びを得て卒業後の進路先を決めていく参考にできたらと思います。

インターンシップは一人2回行う予定です。そして秋からは現場実習という名の実習に変わり、人によっては期間も長くなります。今回のインターンシップで出てきた課題にしっかりと向き合い、次の実習までに克服できるように、普段の授業から意識していけたらと思います。

中学部2年生

ゴミステーション完成！！



中学部2年生では、職業・家庭の授業でゴミの分別とリサイクルについて学習しました。そこで、羽村市の分別ルールに従った「ゴミステーション」を設置することにしました。生徒全員でボックスに色を塗ったり、掲示物を作成し、日常生活の時間や休み時間に、適切にゴミの処理を行うことができるスペースができました。また、種類ごとに分かれたボックスからは、毎週水曜日にクリーン班（作業学習）の回収業務担当チームがゴミを運んでくれます。

この活動を通して、生徒も教員も同様に、自治体のルールを守り、SDGsを意識した生活について考え、実践する大切さを学ぶことができました。

